

## 第33回（2016年度）若手研究者のための健康科学研究助成受贈者一覧

### a. 指定課題（10件）

（五十音順・敬称略）

氏名	所属	研究テーマ
上村 一貴	富山県立大学 工学部	アクティブ・ラーニングを用いた教育介入による運動の促進が高齢者のメンタルヘルスに及ぼす影響 —ランダム化比較試験—
大久保善郎	Neuroscience Research Australia Falls, Balance and Injuries Prevention Centre	反応的・随意的ステップ訓練が高齢者のメンタルヘルスに及ぼす影響 —要因ランダム化比較試験—
鈴木 宏哉	順天堂大学 スポーツ健康科学部	学校における公的運動環境はまちづくりの過程で生じた児童生徒のメンタルヘルス格差を是正するか？
清野 諭	東京都健康長寿医療センター研究所 社会参加と地域保健研究チーム	運動を中心としたフレイル予防プログラムが高齢者の精神的健康に及ぼす長期的効果 —傾向スコアマッチング法による前向き研究—
妹尾 奈波	静岡県立大学 薬食生命科学総合学府	骨格筋FOXO1制御をターゲットとした、運動不足によるうつ症状への影響解明とうつ症状を予防・改善する化合物の探索
東本 翼	産業技術総合研究所 人間情報研究部門	心拍と動作リズムとの同期現象が生じた運動中の脳循環特性の解明 —脳循環の維持・改善に効果的な運動様式の探索—
富賀 裕貴	福岡大学大学院 スポーツ健康科学研究科	肥満が引き起こすメンタルヘルスの悪化は、運動により改善できるか？ —海馬の神経型一酸化窒素合成酵素 (nNOS) に着目して—
藤井 彩	関西医科大学大学院 医学研究科	長期連続身体活動・運動・睡眠状況からメンタル・気分の変化を評価する研究
藤田 幸	大阪大学大学院 医学系研究科	運動トレーニングが中枢神経損傷後における高次脳機能障害を改善するメカニズムの解明
斐 成琉	国立長寿医療研究センター 予防老年学研究部	不活動的高齢者における健康活動促進プログラムの実践が抑うつ傾向と脳白質神経線維の結合性に及ぼす影響

（以上10件、一律100万円を助成。なお、所属は応募時のものを記載）

### b. 一般課題（9件）

氏名	所属	研究テーマ
井上恒志郎	北海道医療大学 大学教育開発センター	一過性中強度運動による海馬CA1を介した記憶固定化の促進に関わる神経機構の解明 —逆行性トレーサーを用いた検討—
川田 将之	鹿児島大学 医学部	ウェアラブルセンサーを用いた臨床応用可能な歩行トレーニングシステムの開発
北嶋 康雄	長崎大学 原爆後障害医療研究所	骨格筋量を決定するタンパク分解系に着目した筋再生メカニズムの解明
坂光 徹彦	広島大学病院 スポーツ医科学センター	障害者スポーツ選手の活動現場における体温変化の実態調査 —熱中症予防を目指して—
夏堀 晃世	東京都医学総合研究所 精神行動医学研究分野	日中の運動によりもたらされる「良質な睡眠」の脳内機序の解明 —脳内アストロサイトの細胞内エネルギー状態に着目して—
西村 一樹	広島工業大学 環境学部	周期的低圧低酸素環境を用いた新しい健康増進システムの開発
原村 未来	鹿屋体育大学大学院 体育学研究科	子どもにおける自体重負荷運動時の呼吸代謝応答および筋活動水準の明確化 —子どものための自体重負荷運動プログラムの策定に向けて—
茂木 康嘉	尚美学園大学 総合政策学部	発育期における筋と腱形状の筋内・腱内部位差の検討
山梨 啓友	長崎大学大学院 医歯薬学総合研究科	地域在住高齢者の国際比較研究 —動脈硬化に着目したサルコペニアの病態解明—

※ 1名辞退

（以上9件、一律50万円を助成。なお、所属は応募時のものを記載）